

第15回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日 時：平成26年11月13日（木）14：00～16：00

2 場 所：総務省（中央合同庁舎第2号館）10階 1002会議室
千代田区霞が関2-1-2

3 出席者：（委員）

兼川 真紀（弁護士）

◎ 亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）

○ 黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）

斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）

榊 誠（公益財団法人あしたの日本を創る協会理事長）

高山 正也（独立行政法人国立公文書館フェロー）

名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

長屋 聡 官房審議官

加瀬 徳幸 管理室長

磯崎 肇 企画官

4 議事次第

（1）「平成26年度平和祈念展示資料館運営業務実施（見込み）報告」についての説明

（2）「中期事業計画の提案」についての説明

5 議事要旨

（1）「平成26年度平和祈念展示資料館運営業務実施（見込み）報告」についての説明

26年度事業者から説明後、意見交換が行われた。

（2）「中期事業計画の提案」についての説明

26年度事業者から説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

○ 展示のキャプションのルビについて、順序通りにキャプションを読まない来館者にも配慮をし、初出のみではなく、十分にルビを振る方がよいのではないか。

- 資料館が主催するイベントについて、紙芝居や語り部お話し会なども重要だが、現代に合うような目新しさも取り入れながら、幅広い年齢層が興味や関心を持つようなイベントを企画してもらいたい。
- 資料館の情報発信として、資料館までの道順や館内の様子を撮影し、YOUTUBEなどの動画サイトなどに掲載したら、効果的な広報になるのではないか。
- 展示資料について、一つの出来事には多面的な要素があるため、一つの側面だけでなく、さまざまな側面での展示を工夫してもらいたい。
- 語り部について、高齢化が進んでおり、記録映像の制作は重要だと思う。語り部が語る内容には思い違いもあるだろうから、留意して行ってもらいたい。
- 資料館の業務報告の評価については、重点事項を絞り、それを中心に説明を聞き、評価していくことも考えるべきではないか。
- キャプションやパネルについて、二次元バーコードを用いると、補足説明や多言語にも対応できる。実験的にやってみてもよいだろう。
- 総合情報データベースの整備について、メタデータの記述方式は、国際標準に乗る形で行うとよいのではないか。
- 来年は戦後70年だがイベントなどを考えていくのか。また、抑留の展示なども全体像が見えるものとするともよいのではないか。